

平成26年4月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

感謝！ 感謝！

前館長 銭場 正人

この3月31日で定年退職いたしました。

博物館での2年間は本当に充実した日々の連続でした。博物館は、自分たちが努力することで多くの県民が喜んでくれる。そして、それを目のあたりにすることができる。そういう素晴らしい職場です。公務員生活の最後の2年間でここで過ごすことができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

また、1年目の9月には天皇・皇后両陛下が、2年目の6月には秋篠宮殿下が当館をご視察され、2年間でこんな貴重な体験ができるとは思いませんでした。いいこと尽くめの2年間であったと思います。

仕事の内容では充実していたと思っていますが、入館者数にはこだわった割には良い数字は残せませんでした。特に、昨年度の前半は、春の特別展の伸び悩みや、65歳以上の有料化などがあり、かなり落ち込んでしまいました。

しかし、9月に職員が皆で意見を出し合い「入館者・収入の確保に向けた取組み」を策定し、10月から、それをもとに様々な取組みを実行に移すとともに、職員一同、入館者数・収入の増加に向け懸命に努力した結果、徐々に効果が表れてきました。

宮川会長さんが、JUNO2月号で「博物館のホスピタリティ」と題して一文を寄せられています。その中で「重要なのは、博物館サイドが『まず、県民のためにホスピタリティが必要であり、それに向けて努力するのだ』という共通認識をもって、その運営をはかれることではないか」とおっしゃられています。まったくその通りです。そして、その共通認識を作り上げるのが、館長の仕事だと思っています。

私はこの2年間、どうしたら職員が一つになれるかということをつも考えながら仕事をしてきました。

誰かが逆転ホームランを打ってくれるのではないかとってはいけない。一人一人がコツコツとシングルヒットを打ち、それが積み重なって得点につながっていく。皆が同じ方向性を持ち、それぞれが自分の持ち場で創意工夫をし、小さなことでもいい、着実に成果を上げていく。職員が一丸となって努力することで博物館の底上げにつなげていく。そういう職場づくりを念頭に仕事をしてきたつもりですが、どこまでできたか、はなはだ心もとない限りです。まだまだ道半ばという気持ちです。

友の会の皆様には大変お世話になりました。講演会の開催等で入館者増に貢献していただいたり、お正月イベントには手弁当でご協力いただいたり、ときには、叱咤激励をいただいたりと本当に感謝しています。これからも「博物館の応援団」として、また「良きパートナー」として力になっていただきたいと思います。

ありがとうございました。感謝！ 感謝！

友の会トピックス

○博物館の人事異動について <敬称略>

<退職>

- ◎銭場正人 館長 →久喜図書館 教育主幹
- ◎杉崎茂樹 副館長 →さきたま史跡の博物館（嵐山史跡の博物館） 資料・展示担当 主任専門員兼学芸員
- #### <転出>
- ◎佐藤敏光 (総務、施設担当) 担当部長→近代美術館 (総務、管理担当) 担当部長
- ◎西口正純 (学習支援担当) 学芸主幹→生涯学習文化財課 課付・主幹 (宮城県教育委員会派遣)
- ◎大明 敦 (展示担当) 学芸主幹→生涯学習文化財課 芸術文化推進担当 主幹 (さいたま文学館勤務)
- ◎高村真史 (総務担当) 主任→与野高校 主任
- ◎高橋諒太 (施設担当) 主事→大宮ろう学園 主事
- ◎諸岡 勝 (展示担当) 主任専門員兼学芸員→文書館 公文書担当 主任専門員兼学芸員

<転入>

- ◎牧 恒男 館長 ←西部教育事務所 所長
- ◎堀米俊孝 (総務、施設担当) 担当部長 ←教育政策課 調査・統計担当 主幹
- ◎伴瀬宗一 (学習支援担当) 学芸主幹 ←生涯学習文化財課 課付・主幹 (宮城県教育委員会派遣)
- ◎栗島義明 (展示担当) 学芸主幹 ←さきたま史跡の博物館 資料・展示担当 学芸主幹
- ◎西口由子 (展示担当) 学芸主幹 ←生涯学習文化財課 課付 (けやき文化財団派遣)
- ◎東 可南子 (学習支援担当) 学芸員 ←臨時的任用
- ◎野北啓介 (展示担当) 学芸員 ←臨時的任用
- ◎奥村麻由美 (展示担当) 学芸員 ←臨時的任用
- ◎宮沢 修 (施設担当) 主任専門員 ←文書館館長
- ◎市川 修 (学習支援担当) 専門員兼学芸員 ←さきたま史跡の博物館 資料・展示担当 専門員兼学芸員
- ◎大久根 茂 (学習支援担当) 専門員兼学芸員 ←自然の博物館 企画・広報担当 専門員兼学芸員
- ◎井上尚明 (展示担当) 専門員兼学芸員 ←自然の博物館館長
- ◎針谷浩一 (資料調査・活用担当) 専門員兼学芸員 ←文書館 古文書担当 主任学芸員

<館内配置換>

- ◎杉山正司 (企画、学習支援、展示、資料調査・活用担当) 副館長 ←(展示、資料調査・活用担当) 主席学芸主幹
- ◎田中裕子 (展示、資料調査・活用担当) 主席学芸主幹 ←展示担当学芸主幹
- ◎財津花奈子 (総務担当) 主事 ←企画担当 主事
- ◎浦木賢治 (企画担当) 学芸員 ←展示担当 学芸員
- ◎山田 実 (展示担当) 主任専門員兼学芸員 ←学習支援担当 専門員兼学芸員

<昇任>

- ◎平井悠一 (学習支援担当) 担当課長 ←学習支援担当主任

<臨任任期満了者>

- ◎両角まり (学習支援担当) 学芸員
- ◎岩嶋孝典 (展示担当) 学芸員
- ◎高橋恵美 (展示担当) 学芸員
- ◎川崎友梨 (資料調査・活用担当) 学芸員

友の会トピックス 2

◎これからの友の会・博物館などのイベント <あなたのカルチャセンターは「博物館」と「友の会」>

○4月17日(木) 友の会見学会「県内最大の円空仏を拝む」 残念ながら、締切りました

○4月25日(金) 友の会 映像写真クラブ「大江戸名所百景を歩く」 この号にチラシ同封

○4月27日(日) 友の会・博物館・共催講演会「考古学で決める邪馬台国」
講師：東京大学教授 設楽博己先生 この号に詳細掲載
<一般にも公開しますので、会員の方は至急お申込みください>

○5月3日(祭・土) 友の会 お祭り研究クラブ「春日部大風祭り」
東武伊勢崎線「春日部」駅東口改札 10時30分集合→バス→「大風会館入口」
下車→河川敷会場 大風上げは12時半の予定 昼食各自用意 参加費 50円
(保険料) 交通費も各自 国の無形民俗文化財 参加申込受付中
参加申込み・連絡先：090-2259-1673 元木(もとき)

○5月6日(火・休) 博物館特別展「屋根裏部屋の博物館」終了

○5月24日(土) 友の会 古道散策クラブ「鎌倉街道中道を歩く」第6回「東岩槻～旧慈恩寺」
東武野田線「東岩槻」駅西口前 9時集合 参加費 300円
参加申込み・連絡先：090-6033-1836 犬走(いぬばり) 次号に詳細掲載予定

○5月25日(日) 友の会・博物館・共催講演会「弥生時代から古墳時代へ」(仮題)
講師：国立歴史民俗博物館教授 松木武彦先生 次号に詳細掲載予定

○6月20日(金) 友の会見学会「長野県下最大『天空の森将軍塚古墳』(千曲市)と長野県立博物館
など」 次号に詳細掲載予定

<お申込みは詳細の掲載後。それ以前のお申込みは無効とさせていただきます>

◎今年も、大学生ボランティアの「神楽公演」を応援しましょう!

もう今回で8回目となった「江戸里神楽」の公演。実行委員会はボランティアの学生さんたちです。その心意気に応えて、友の会は毎回、「気持の応援」をさせていただいています。しかし、実際には見る機会の少なくなった「里神楽」。これを冷暖房の効いたホールで、ゆっくり鑑賞できるチャンスを与えていただいているのです。あなたは、もうご覧になりましたか? まだでしたら、それは「モッタイナイ」です。ぜひ、今年にご覧になってください。

☆平成26年9月26日(金) 昼公演 1時～4時 (予定) 夜公演 4時半～7時半 (予定)

☆さいたま芸術劇場小ホール (埼京線与野本町下車 徒歩7分)

☆出演「大宮住吉神楽保存会」(坂戸市塚越)

☆演目「国譲り」など (昼・夜の演目が違いますので、お問合せください)

☆申込み 原則はメール yfe78576@nifty.com です 住所(〒番号)・氏名・電話番号・昼公演・何席 夜公演・何席と明記のこと

メールをお使いでない場合やお問合せは 090-9953-0299 斉藤さん 「友の会会員が神楽の件」でと、お話ください。

☆料金 1000円 申込み後、当日、会場でお支払い チケット発送は5月すぎを予定
プログラムも1000円・予約要

考古学で決める 邪馬台国

魏志倭人伝を「金科玉条」としては、邪馬台国は見つからない。見たヒトが、それをそのまま書いたものではないからです。
それを見つけるのは、これまで「古代」を掘り進め、考えてきた考古学です。さて、考古学者は、いま、その「邪馬台国」をどのように考えておられるのでしょうか。何が「決め手」となると、(あるいは)なった、と考えておられるのでしょうか。

講師 設楽博己先生

(東京大学・大学院・文学部・教授)

日時 平成26年4月27日(日)

午後1時半～3時

場所 当館講堂(東武野田線・大宮公園駅5分)

参加無料

ご参加のお申込みは、往復ハガキにお名前・住所・電話番号・会員は会員番号・イベント名を明記、返信面にお名前・住所をご記入のうえ、4月24日(木)必着、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員150名。オーバーの場合は、その時点で締め切らせていただきます。

<返信面は52円かかりますので、ご注意ください>

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

多くの方に来ていただける博物館を目指して

館長 牧 恒 男

博物館友の会の皆様、はじめまして。この4月に館長に就任いたしました牧 恒男と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は、長い公務員生活の中で、博物館勤務は今回が初めてであります。私の経歴は、自分でも不思議なくらい特異ではないかと思えます。旧入間都大井町(現ふじみ野市)の教育長、公立中学校長、そして南部、西部の2か所の教育事務所長を務めてまいりました。およそ博物館とはかけ離れた職場だったかなと思えます。

そんな私ですが、平成21、22年度と2年間、県の生涯学習文化財課長を務めました。この2年が博物館とコラボした接点であったと思えます。

さて、折角の寄稿の機会ですので、私がこれまで経験してきた中で印象に残っていることを記したいと思います。

それは、校長時代の経験です。私は中学校の校長でしたので、生徒を引率して修学旅行に行きました。行先は、県内のほとんどの中学校が行く奈良・京都でした。一日目は、法隆寺、東大寺、奈良公園と見学し、二日目は、グループ単位での京都市内見学でした。

しかし、生徒たちを観察し、話をしてみると、神社仏閣あるいは古都の文化に陶醉している雰囲気は残念ながらあまり感じられませんでした。特に、二日目のグループ別見学では、丸一日使って古都京都を散策できるように各グループが見学コースを設定していましたが、予定時刻よりかなり早く宿に戻ってきてしまう有様でした。当然、他の中学校と同じように事前学習は行っていたのですが。

この時私は、子供たちの発達段階に合った修学旅行をプログラムする必要があると感じました。そこで、このような状況を鑑みて、次年度から、中学2年生、14歳の生徒の心に残る修学旅行として、今でこそ「じぇいじぇい」で有名になりましたが、岩手県の久慈市の農家に民泊し、農業体験や日本の原風景に触れるプログラムに変更しました。変更するときこそ、生徒の反対があったものの、実際に体験してみると、どの生徒にも心に残る修学旅行となりました。

博物館も同じようなことが言えるのではないのでしょうか。博物館には、小さなお子さんから年配の方まで、まさにさまざまな年代のお客様がいらっしゃいます。そして、物の見方、感じ方、興味のありなしなど、一様ではありません。どの年代の方にもすべてとはいきませんが、様々な年代の方に関心を抱いていただけるような、そんなプログラムが大切だと思います。

職員一同、展示や催事など工夫を凝らして、来てよかった、また来たい博物館を目指して努力してまいります。友の会の皆様にも、今後とも一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

友の会通常総会のご案内

下記の通り、通常総会を開催いたしますので会員の皆様のご出席をお願い致します

平成26年5月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 会長 宮川 進

日時 平成26年5月25日(日) 午前10時～11時30分

会場 県立歴史と民俗の博物館講堂

内容 平成25年度の活動内容・会計収支を報告し、平成26年度の活動計画、会計予算、役員人事などを審議していただきます。

出席資格は当会会員に限ります。但し事前の出席申込は不要です。

友の会トピックス

5月24日(土) 古道探索クラブ 第6回 鎌倉街道中道を訪ねて「旧慈恩寺村」

集合 東武野田線(アーバンパークライン) 東岩槻駅北口 9時

参加費 資料代等300円 小雨決行(悪天中止の場合は連絡いたします)

参加申込 5月17日(土)までに、ハガキに氏名・住所・会員番号

電話番号(ご自宅・携帯共)を明記して下記住所へ送付願います

〒339-0058 さいたま市岩槻区本丸3-8-17 犬走東道

問合せ先電話 048-756-5634(いぬばしり)

コース概要 東岩槻駅～兩辻八幡神社～宮町碑久伊豆神社～龍門寺～諏訪神社(諏訪山遺跡)～上野の両墓制～十二天社(貝塚)～慈恩寺～花積貝塚～東岩槻駅 15:30分頃解散予定

歩行距離 約9K(史跡巡り立寄り含め10K)

注意事項 歩きやすい服装・靴でご参加下さい・昼食は持参の事

保険には加入しています 当日体調悪くなられた方はスタッフへ連絡してください

5月25日(日) 友の会通常総会 上記案内通り

5月25日(日) 友の会・博物館共催講演会 この号に詳細掲載

6月16日(月)～23日(月) 博物館は臨時休館です

6月20日(金) 友の会見学会「長野県立歴史館と森將軍塚古墳他」この号に詳細掲載

6月29日(日) 映像写真クラブ「大江戸名所百景を歩く」第2回 上野周辺

集合: JR京浜東北線 上野駅 公園口 午前10時

歌川広重の名作浮世絵『大江戸名所百景』で描かれた場所に行き、同じ位置から150年の時を経た街や景色を眺めようという企画。第2回は「上野周辺」。上野公園を中心に、不忍池、寛永寺、広小路、湯島天神などを回ります。昼食は精養軒あたりを予定しています。

参加申し込み ①FAX 048-470-2758 ②ホームページの「申込フォーム」より

③Eメール: pu8n-tki@asahi-net.or.jp *氏名・会員番号・連絡先電話などを明記

問い合わせ先電話 090-1990-4807(つくい)

友の会ホームページ junosaitama.expressweb.jp/index.html

友の会ブログ <http://hakutomobulog.at.webry.info/> 合わせてご覧願います。

～長野県下最大の前方後円墳より科野の国を一望する旅～
(全長 100m)

長野県立歴史館と国史跡森將軍塚古墳見学 並びに遊学城下町松代の文化財散策

* 昼食: 信州そば処「一松亭」にて本格そばを堪能
(そばの代わりにうどん等へ変更も可能です。希望者は予めお申し出ください)

<見学コース>

- ・上信越高速道路にて妙義山、浅間山を眺めながら更埴ICより“あんずの里”千曲市へ。
- ・早めの昼食を済ませ、長野県立歴史館にて学芸員による展示解説を受ける。
- ・森將軍塚古墳館へ移動し、古墳の竪穴式石室、出土副葬品・埴輪等を見学。
- ・マイクロバスと徒歩にて天空の森將軍塚墳丘に立ち、科野の国を眼下に眺める。
- ・更埴ICに戻り長野ICを経由して松代町へ移動。真田十万石の城下町松代を散策。

コース: 松代観光案内所→真田宝物館→真田邸→旧臼井家表門→文武学校→松代城跡→観光案内所
(徒歩見学時間 約60分)

* バス往復共、乗車約90分後の高速道路パーキング“上里SA”にて小休憩いたします。

日 時: 平成26年6月20日(金)

集 合: 午前 7:30 出発

大宮駅西口・ソニックビル西側 大型バス待合せ(友の会黄旗を掲示)

参加費: 6000円(当日徴収いたします。)

ご参加のお申込みは～

- ・締切期日: 6月15日(日)
- ・定 員: 45名(先着順とさせていただきます)
- ・申込資格: 会員限定ですが、ご家族若しくはご友人はご参加いただけます。
- ・申込方法: 往復はがきに住所・氏名・会員番号・電話番号を明記して下さい。
(できれば携帯電話番号)
- ・送付先: 〒330-0841 さいたま市大宮区東町2-4 金子清敏 宛
- ・その他: 座席のご希望及び集合場所地図をご要望される方は葉書に明記
願います。

*当日緊急連絡先: 090-7170-3294 グループリーダー 岩井隆興
090-6538-5935 事務局 金子清敏

吉備から考える 邪馬台国

吉備の国といえば、弥生時代から古墳時代をつなぐ時期に、古墳の原形ともいわれる「楯築墳丘墓」、不思議なカタチの「特殊器台」、などで、最新の文化を誇ったところ。その国が、邪馬台国とは、どういうつながりをもったのか。ひょっとしたら、吉備そのものが、邪馬台国だったのではないか。永年、岡山大学におられた先生から、吉備と邪馬台国の関係をお話いただきます。

講師 松木武彦先生

(国立歴史民俗博物館教授)

とき 平成26年5月25日(日)

午後1時半～3時

場所 当館講堂

＝東武野田線・大宮公園駅・下車5分

ご参加無料

☆ご参加お申込みは、往復ハガキにお名前・ご住所・お電話番号・会員の方は会員番号・イベント名を明記、返信面にお名前、ご住所をご記入のうえ、5月22日(木)必着、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員150名オーバーの場合は、その時点で締め切らせていただきます。

☆ハガキが消費税値上げのため、往信・返信各52円となっていますので、ご注意ください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

守・破・離 と 博 物 館

副館長 杉山正司

日本文化の精神に「守(しゅ)・破(は)・離(り)」という考え方があります。茶道や武道など伝統文化継承のなかから生まれたもので、現代では人材育成法に取り入れられることが多いのですが、私は博物館経営においても必要な思想だと思っています。道や流派などで、それぞれ解釈が若干異なりますが、私は次のように考えています。

「守」とは、師や先輩の教えや基本を忠実に守って精進して、しっかり身につける。

「破」とは、師や先輩の教えから一歩進んで、他からの教えなどを取り入れて工夫・研究・模索して、さらに発展させ基本の型を破り新しい型をつくる。

「離」とは、「破」からさらに研究を重ねて「守」や「破」の型にとらわれずに前進して、自身の新たな世界や境地を拓いていく。つまり独自の新しいものを生み出して、自己を高めていくものと考えています。

当館の博物館経営では、これまで培われてきた経験「守」を尊重しつつ、様々な要素を取り入れて展示や事業展開をする「破」の精神で取り組んできました。一例として、『紀要』第8号の拙稿にあげた展示やミュージアム・ビレッジ大宮公園の実施などがあります。しかしながら、まだまだ「守」「破」の域を脱していません。博物館を取り巻く環境や社会の要請も変化してきており、また来年はリニューアル10年目の節目の年となります。そろそろ博物館も新たなステージ「離」へ、進んでいく段階に来ているのではないのでしょうか？

私の好きな言葉があります。「提一燈 行暗夜 勿憂暗夜 只頼一燈」(一燈を提げて、暗夜を行く。暗夜を憂う勿れ。ただ一燈を頼め)。美濃国岩村藩松平家家老で幕府昌平黌の儒官ともなった佐藤一斎の著した『言志四録』の「言志晩録」13条に収められている言葉で、ご存知の方も多いと思います。「一燈」とは、私は目標、希望などと勝手に解釈していますが、この「一燈」は己が信ずる目的とすれば、その手段が「離」ではないかと思うのです。

今こそ、博物館に「離」が求められる時です。『太平記』にみるように、時代の転換期や変革期に新しいものを生み出すことは、多くの苦難や混乱を伴いますが、それは新しい歴史の生みの苦しみといえるものです。当館では、「一燈」を提げて、一歩ずつですが新たな媒体を使った取り組みを行い、魅力ある博物館にしていきたいと考えています。日ごろから博物館を応援していただいている皆様ですが、「離」に対して戸惑い、あるいは眉を顰める方もいらっしゃるのではと思います。何卒、御理解いただきたくお願いします。

ちなみに諸説ありますが、守・破・離の言葉の元となったと考えられるのが、千利休の教えを和歌形式にまとめた「利休道歌」(利休百首)のなかの「規矩(きく)作法 守り尽くして破るとも 離るとても本(もと)を忘るな」という歌です。守破離は必要であると認めながらも、最後には立ち返って教えの基本は忘れてはならないとしたものです。私たちも、博物館の「本」を忘れないよう肝に銘じて参りますので、応援よろしく願いいたします。

友の会トピックス

◎今後のイベントなど

- 6月16日(月)～23日(月) 博物館・館内消毒のため、休館
○6月20日(金) 友の会見学会「長野県立歴史館と森將軍塚古墳ほか」 好評満員、募集締切スミ
○6月29日(日) 映像写真クラブ「大江戸名所百景を歩く」第2回 上野周辺

集合：JR 京浜東北線 上野駅 公園口 午前10時

歌川広重の名作浮世絵『大江戸名所百景』で描かれた場所に行き、同じ位置から150年の時を経た街や景色を眺めようという企画。第2回は「上野周辺」。上野公園を中心に、不忍池、寛永寺、広小路、湯島天神などを廻ります。昼食は精養軒あたりを予定しています。

参加申し込み ①FAX 048-470-2758 ②ホームページの「申込フォーム」より
③Eメール：pu8n-tki@asahi-net.or.jp *氏名・会員番号・連絡先電話などを明記
問い合わせ先電話 090-1990-4807 (つくい)

- 7月19日(土)～8月31日(日) 博物館特別展「江戸の街道」～絵図でたどる宿場と関所～
○7月19日(土) 博物館歴史民俗講座「絵図が語る江戸の街道」 1時半～3時
講師・当館学芸主幹 加藤光男氏 受付は6月19日から博物館(048-645-8171)
○7月20日(日) 共催歴史講演会「日本庭園の見方・楽しみ方」 詳細本号
○7月21日(月) お祭り研究クラブ「関東一の祇園『熊谷うちわ祭』」 集合14時・熊谷駅改札出口

参加申し込み・元木孝(090-2259-1673 0493-54-0401) 雨天決行
交通費自弁 保険代50円 16:00～曳き合わせ叩き合い 18:30～連続叩き合い
次回は10月18日(土)川越祭り

- 7月27日(日) 博物館特別講演会「近世・近代の街道絵図について」 1時半～3時
講師・元・国立歴史民俗博物館教授 山本光正氏 受付は6月27日から博物館(048-645-8171)

友の会からの求人

◎慢性的な人材難に苦慮している友の会からの「求人」です。

○友の会サポーター

友の会の受付やニュースの発送などをお手伝いいただける方。

内容につきましては、土日祭に博物館の友の会受付におります当番さんにお聞きください。

とても、私なんか、勤まらないーと、勝手におもわないでください。定年後の方、むかしにOLだった、ご家庭の主婦の方も、やっつけていただいています。グループを二つにわけて、当番をしていただいていますから、2ヶ月に1回の出番となりますので、ご負担は少ないと思います。

○パソコンをちょっと、かじったことのある方

当会のホームページが始まっています。これは、ご自宅でしていただけるお仕事です。あなたのお力に応じてのお仕事を願っています。ホームページのほか、会員名簿管理もパソコンで行なっていますので、そちらのお仕事もお願いしたいところです。

○会計のお仕事をされたことのある方

複式簿記などとムツカシイことはありません。数字に拒否反応のない方、ぜひお力をお貸しください。

◎上記、求人へのご返事は、受付当番さんにお伝えいただくか、ハガキ、メールなどをお願いいたします。

友の会の問題点

平成 25 年度の友の会の決算は、この 1 年度で約 20 万円の赤字ということになりました。その分析をしますと、見学会が 1 回少なかったことと負担金が約 10 万円増えたことに原因があるかと思われます。

◎負担金とは～

この「負担金」というのは、友の会の会員は博物館への観覧料は無料となっていますが、実はこの、個人が「無料」となる分を友の会が負担している、その経費のことなのです。昨年 6 月までは、65 歳以上の方については観覧料が無料であったため、負担額はゼロとなっていました。そのあと、県の条例改正で 65 歳以上の方の無料扱いがなくなったため、その分の友の会からの持ち出しが増えたのです。

◎例えば～

負担金増加を 10 万円とすると、例えば見学会の年間ご参加者が 200 名として、お一人、1 回 500 円をご負担いただいております、また負担金総額を 20 万円とすると同じく 1 回 1000 円をご負担いただいているということになります。

また、全会員が 500 名とすれば、会費年額 2000 円のうち、400 円を会員の観覧料無料のためにお支払いいただいていることになるのです。

◎ご安心はいただきたいのですが～

これまでの繰越金があったため、現在のところは、債務超過にはなっていないのですが、このままでゆくと、毎年、繰越金を食いつぶしてゆくこととなります。

会費を値上げするか、当会の唯一の収益事業である見学会を活性化するか、まだまだ、打つ手はあると思います。

会員の皆さまも、どのように対処すればよいか、名案をお考えいただきますよう、お願いいたします。

友の会のスタッフ

平成 26～27 年度は、わたしたちが、友の会のお世話をさせていただきます。

行き届かないことも多いと思いますが、お許しのうえ、よろしくお願い申し上げます。（☆印は新任）

○会長 宮川進 ○副会長 中村均 岩井隆興 斉藤文孝 ○常任理事 金子清敏 西本豊司☆

○理事 石随千恵子 犬走東道☆ 上田彰一郎 岡本浩☆ 大野典司 片岡節子 加藤陽子

金子慶子 金子榮 黒沢勝利 小坂橋美紗子 小林都子 斉藤亨 斉藤紀子 高瀬敏男

滝沢由美子 筑井信明 手塚充 徳永憲郎 長島勇 西島孝 広重孝子 坊野清之

町田富夫 松岳俊一 見富千恵子 水村陽子 元木孝☆ 山口清光 山本洋正☆

○監事 青山定義 平野久雄

○サポーター 石井富久子 小泉俊江 小林洋子 辻本祥子 馬渡憲子 箭吹順子 渡辺由美子

飯野和宏 大平福子 菅野豊子 鈴木正子 矢内喜美江 向川涼香

*博物館での受付は<土・日・祝>です。それ以外の日は、申し訳れございませんが、友の会との直接連絡はとれません。お許しくださいますよう、お願い申し上げます。

* 博物館へご連絡いただきましても、お取次ぎはしていただけません。博物館を応援する友の会として、館の方々のお仕事のお邪魔になることは避けたいと考えております。

日本庭園の 見方 楽しみ方

なんとなく、「いいなあ」とは思う庭園ですが、ホントの見方、楽しみ方って教わったこと、ないですよ。せっかく、名庭園を訪れても、肝心の見どころを見過ごしてしまっていたのでは、人生、大きなマイナスです。今回のご講演は、初めて聴く、そして、人生に大きくプラスとなるお話です。

講師 鈴木 誠 先生(東京農業大学教授)

日本庭園学会・会長 (社)日本造園学会・常務理事

とき 平成 26 年 7 月 20 日(日)

午後 1 時 30 分 ~ 3 時

ところ 当館講堂(東武野田線・大宮公園駅下車 5 分)

ご参加無料ご参加お申込みは、往復ハガキにお名前・ご住

所・電話番号・会員は会員番号・返信面に住所・氏名を明記、

〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民

俗の博物館友の会へ。定員 150 名オーバーの場合はその時点で締め切り。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成26年7月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

「我がご先祖さま」考

理事 坊野清之 (越谷市)

私の苗字は「坊野」(ボウノ、ボウヤではない)。小鳥遊さん(「タカナシ」と読む。周囲に鷹がないから)程の珍姓ではないが、あまり見かけぬ姓である。

鹿児島県薩摩半島の南端辺に坊津(ボウノツ)なる所がある。今は、町村合併で南薩摩町に入れられてしまったが、昔は坊津町であった。「津」は、ご案内の通り、港、船着場の意で、三重県の「津」、滋賀県の「大津」、額田王の歌の「饒田津」(愛媛県道後温泉近く)等々が有名で、坊津も東支那海に面する港町である。我が先祖はどうやらこの町の出身ではないか、というのが高校で地理を教わった近藤先生(故人)の説である。坊津は、鎌倉から戦国末期にかけて、韓半島や支那大陸沿岸を侵犯・略奪した海賊(倭寇)の本拠地の一つという。とすると、私の先祖は海賊か!ということになる。倭寇は、瀬戸内の村上水軍(和田 竜の小説「村上水軍の娘」は、私も週刊誌連載中に読んだ。)とか四国の伊予水軍などとは違い、朝鮮・中国などの海外が主な活動の場で、国際的であるが、実際の倭寇は倭人だけではなく、漢人も鮮人も倭寇の構成員であったと読んだことがある。明末の国姓爺合戦の主人公・鄭成功の父親は倭寇の漢人、母親は平戸の和人だったという。何にしても、倭寇は、通商の外に、近隣国の沿岸を荒らし回り、暴行・略奪・放火・殺傷などを恣にしたとも推察される。我がご先祖様もその一員であったかも知れないとなると、あまりぞっとする話ではない。ただ、我が先祖が、ボウノ一族の倭寇の中で、どんな地位にあったのか、八幡大菩薩の旗を掲げた倭寇の船(八幡船 パハンセン)を預かり戦闘を指揮・差配する幹部クラスだったのか、単なるその他大勢の戦闘員もしくは舵取り・水夫の類だったのが、今では知りようがない。西暦1588年、秀吉により倭寇禁止令が出て、倭寇は商売あがったりになる。わがボウノ一族はどうしたのだろうか? 遂に、父祖の地、坊津を捨てて一族集団移動とあいなったであろう。挙句、近江国の山中に辿り着き、一村を建てる。「木流(キナガセ)村」という。木流村が、一村全て坊野姓であったことは、私の弟(小さな文化系通信社経営中のジャーナリスト)が、先年、現地に行き菩提寺にも寄って確認済みである。近江で何を生業にしたのだろうか。多分、農業か林業だろうが、喰えたのだろうか? 確証はないが、またぞろ、昔を思い出して今度は、山賊をやったのかも知れない。海賊から山賊へ、これでは末裔たる私は、ご先祖様の罪業を背負って、良いことがある筈がない。金運(宝籤もあたらない)にも健康運にも恵まれなかった。ヤレヤレ!! 以上、私の勝手な想像でした。

友の会トピックス

◎これからの友の会・博物館のイベント

○7月19日(土)～8月31日(日) 博物館特別展「江戸の街道(みち)」～絵図でたどる宿場と関所～

○7月19日(土) 上記特別展関連・歴史民俗講座「絵図が語る江戸の街道」 1時半～3時

講師：博物館学芸主幹・加藤光男氏

申込み・博物館へ電話で(048-645-8171) 定員150名

○7月20日(日) 共催歴史講演会「日本庭園の見方・楽しみ方」 1時半～3時

講師：東京農大教授・鈴木 誠氏

申込み・往復ハガキにお名前・ご住所・電話番号・イベント名、会員は会員番号を記入、返信面に住所・氏名を明記し、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。 申込み受付中

○7月21日(月) お祭り研究クラブ「関東一の祇園『熊谷うちわ祭』 集合14時・熊谷駅改札出口

参加申込み・元木孝(090-2259-1673 0493-54-0401) 雨天決行
交通費自弁 保険代50円 16:00～曳き合わせ叩き合い 18:30～連続叩き合い
次回は10月18日(土)川越祭り

○7月27日(日) 博物館特別講演会「近世・近代の街道絵図について」 1時半～3時

講師・元・国立歴史民俗博物館教授・山本光正氏

申込み・博物館へ電話で(048-645-8171) 定員150名

○8月10日(日) 上記特別展関連・トークセッション「ちょっと一服。街道よもやま話」 1時半～3時

対談者 郵政博物館主席資料研究員・井上卓朗氏

物流博物館学芸員・玉井幹司氏

博物館副館長・杉山正司氏

申込み・博物館へ電話で(048-645-8171) 定員150名

○8月22日(金) 映像写真クラブ「浮世絵の勉強会」 3時～5時

<別ページ参照>

※例年8月は、友の会の恒例イベントとして、「地中からのメッセージ・最新出土品展」を見学に行ってきました。平成18年8月13日、嵐山史跡の博物館で開催中の最新出土品展に出かけたのが、友の会第1回の見学会でした。

その後、展覧会の会場が、行田の方へ代わってからも、毎年、暑いなか、汗をかきながら、付録として、行田周辺の遺跡、史跡を合わせ、見学会を実施してきたものです。県境を越して、群馬県太田市の天神山古墳(東国最大)を訪ねたり、羽生の永明寺古墳の上で、蚊の来襲を受け、みんなで「かゆい、かゆい」と悲鳴をあげたことなど、楽しい思い出もいっぱいありますが、出土品展の内容などの影響で、年々、集客力が低下しており、残念ながら、ことしは中止といたしますので、ご了承ください。

ここの友の会・プレミアム講座は……

博物館のご好意により、友の会会員限定で実施していただいている「友の会・プレミアム講座」について、今年度からは、友の会は博物館との企画打ち合せや講座実行体制にあたるため、プレミアム講座委員会（仮称）を発足いたしました。早速、博物館から、今年の計画として次のようなご提案をいただきました。正式には理事・実行委員会で決定することとなりますが、とりあえず、お知らせいたします。

○9月2日（火）	「江戸の`写`文化」	講師	企画担当学芸員	浦木賢治氏	*
○10月23日（木）	「古墳時代の武器・武具」	講師	展示担当主任学芸員	中山浩彦氏	*
○11月20日（木）	「円空仏」	講師	展示担当学芸主幹	西口由子氏	*
○12月3日（水）	「竹細工」	講師	学習支援担当主任学芸員	服部 武氏	
○1月13日（火）	「農業と暮らし」	講師	展示担当主任専門員兼学芸員	山田 実氏	*
○2月26日（木）	「東日本大震災復興活動支援について」	講師	学習支援担当学芸主幹	伴瀬宗一氏	

*印は講義のあと、展示室での解説があります

平素ご研究されているテーマ、あるいは生涯の研究テーマについてのお話になるかと思われます。ぜひ、ご参加いただいて、プレミアムな内容で、かつ、講師の方々のお人柄にもふれさせていただくアットホームな講座として、盛り上げていただきますようお願いいたします。

『浮世絵の勉強会』を開催します— 映像写真クラブ どなたでも参加できます

『大江戸名所百景を歩く』を2回開催してきましたが、ここであらためて、〈浮世絵〉という、江戸時代に出現した日本の偉大な大衆芸術の成立とその現代的な価値とを考えてみたいと思います。クラブ活動での研究発表ですから高度な内容を期待されると困りますが、なるべく多くの作品を映像で紹介し、皆さんと一緒に楽しみたいと考えています。参加自由です。どなたでもご参加ください。（勉強会に先立ち13時から映像写真クラブの会合も開催します）。

記

日時：2014年8月22日（金） 15：00-17：00

場所：シーノ大宮センタープラザ5階 桜木公民館 講座室2
（大宮駅西口から5分）

主催：埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 映像写真クラブ

内容：浮世絵の勉強会（参加自由です）

①浮世絵の歴史

②広重、北斎はじめ風景浮世絵の紹介と現代からみた価値

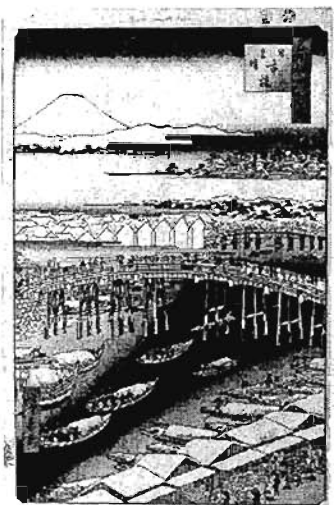
③「大江戸名所百景を歩く会」の今後の予定 など

申込：（会場の関係で、以下のいずれかで事前申込をお願いします）

①FAX：048-470-2758 ②Eメール：pu8n-tki@asabi-net.or.jp

③「友の会ホームページ」の「申込フォーム」より送信フォームで。

氏名・会員番号・連絡先電話などを明記 問合せ電話：090-1990-4807（つくい）（資料代：100円程度）



にぎわう江戸の町と川『江戸名所百景 第一景 日本橋雪晴』

博物館編で、「わくわく埼玉県歴史ロマンの旅」出版！

○このたび、博物館の方々が、手分けして執筆された「わくわく埼玉県歴史ロマンの旅」という文庫本が東京・学陽書房から出版されました。

最新の学術成果をふまえ、しかも一般向けにやさしく書かれた好著です。

友の会の会員の方には、ぜひ、1冊をお持ちのうえ、県内をあちこちお歩きのときのガイドブックとして、お使いいただきたいと思います。

○定価 760 円+税=821 円です。

○当会としては、会員の皆さまのご便宜のため、7月20日（日）の講演会の会場で割引販売をさせていただき予定をしております。ご参加の方はお買い求めください。

○ご参加いただけない方につきましては、振替でのご送金、書籍送料などを考えますと、とりあえずは、「AMAZON」でのご購入が送料無料でもあり、ご入手も早く、ご便利だと思われま

○お住まいが遠く、パソコンネット通販もご利用されていない方のために、別途、対処を考え、次号にてお知らせさせていただきます。

まだまだ、友の会に不足していて、困っているもの

おかげさまで、こんなに大きくしていただいて、さらになお、この友の会に不足しているものがあります。

①ひとつは、クラブです

500人を超えるようになった友の会ですが、これだけ大きくなりますと、会員の皆さまのニーズに、これまでの「講演会」と「見学会」の二本立てで応じていられるかという問題が起きます。プレミアム講座も、そういう状況に対応するものですが、多様化する個人のニーズにさらにフィットするイベントが必要だと思われま

②もうひとつは、お手伝いいただくサポーターです

現在、当会の実務はAグループ（斉藤グループ）とBグループ（岩井グループ）の二つに、隔月単位で受付、イベント申込みの処理、会報発送などを行なっていただいています。そのほか、会計、会員管理、広報などは個人で引き受けていただいています。友の会は、これまでも、このような無償ボランティアの奉仕の上に成り立ってきました。友の会への奉仕は、キビシイ拘束はありません。ぜひ、このサポーターからお始めいただき、あなたのオチカラを友の会へ注いでいただくように、お願いいたします。

①、②ともにご相談は、おハガキやホームページで、友の会へ！

平成26年8月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

「五街道分間延絵図」成立の謎

博物館 学芸主幹 加藤光男

今夏の特別展「江戸の街道（みち）」は、“にっぽん歴史街道”を共通テーマとして郵政博物館・物流博物館・草津市立草津宿街道交流館・埼玉県立浦和図書館・埼玉県立文書館とともに共催する展覧会です。

会員の皆様に、展示の中心的資料である「五街道分間延絵図」（ごかいどう・ぶんけん・のべ・えず 以下、延絵図）の成立の謎をこっそり御紹介しましょう。

幕府は、管轄する街道の現状を把握するために延絵図を作成し、文化3（1806）年頃に完成させました。1部は将軍に献上され、残りは実務に供するため道中奉行所に置かれました。現在、将軍献上本は、東京国立博物館で重要文化財となり、実務本は、郵政博物館（3月にスカイツリータウン内ソラマチに開館）に収蔵されています。

さて、第1点目の謎は、献上本と実務本のどちらが先行して製作されたか、わからないということです。双方に修正箇所があり、また描写や記述も異なっているので、同一の下書きがあったかどうか不明です。何故、同じ街道で記載が異なるのか、どのような成立事情があったのでしょうか。

第2点目の謎は、献上本と実務本が220年の時空を超えて、今回、初めて同時公開され、比較展示されますが、この間、双方が邂逅することがなかったのかということです。伝来の経緯は、献上本は江戸城紅葉山文庫から明治維新となって浅草文庫に収蔵され、やがて東京国立博物館に入っています。一方、実務本は、道中奉行所から維新後、駅通局、郵便博物館を経て通信総合博物館、そして郵政博物館となっており、接点がありません。しかし、今回献上本に付属する「総目」は、本来実務本に付属する資料です。それが何故、献上本に含まれているのでしょうか。

第3点目の謎は、あまり知られていないのですが、実務本には献上本にはない「日光御山内見取（ごさんないみとり）絵図控」、東海道の脇往還であった「本坂道（ほんさかみち）分間延絵図」、「箱根湯治場道見取（とうじばみちみとり）絵図控」、「信州松本通見取（どおりみとり）絵図控」、「見取開（みとりひらき）絵図」が含まれています。献上本は将軍が御覧になる公式絵図として完本でなければならないと思うのですが、それら5点が現存しない、どこに行ったのか、製作されなかったのか、大きな謎です。

こうした成立の謎が、今回の特別展を契機に、徐々に明らかになっていくことを期待しています。

友の会トピックス

◎これからのイベントなど <博物館主催のイベントについては、同封のチラシをご覧ください>

- 8月22日(金) 友の会・映像写真クラブ 「浮世絵の勉強会」 ニュース本号参照
- 9月2日(火) 友の会プレミアム講座「江戸の“写”文化」 講師：浦木賢治氏(当館学芸員)
- 9月23日(祝) 講演会「江戸時代の村と百姓の実像」 講師：渡辺尚志氏(一橋大・大学院教授)
ニュース本号参照
- 9月26日(金) 江戸里神楽公演
- 10月4日(土) 友の会・古道探索クラブ 「鎌倉街道を訪ねて」第7回 ニュース本号参照
- 10月18日(土) 友の会・日本の祭り研究クラブ 「川越まつり」 ニュース本号参照
- 10月23日(木) 友の会プレミアム講座「古墳時代の武器・武具」 講師：中山浩彦氏(当館主任学芸員)

江戸里神楽公演について

◎必死に頑張るボランティアの学生さんを応援してあげましょう！

「9月26日の夕方公演がちょっと危機的な状況」ということのようにです。

県内の学生さんが、なぜ、毎年、この里神楽の公演を行なわれるかということ、県内に残る伝統芸能が、未
永く継承されることを願い、応援してゆこうとの気持ちからです。

この暑いなか、予約をふやそうと、冷や汗をかきながら、奔走されています。友の会の会員として、この
ような状況に見てみぬふりができますか？

学生さんの2倍も3倍も生きてきた私たちが、助けられるところは、助けてあげなければ～と思います。
里神楽の公演というと、ふつうは屋外でのキビシイ環境のもとでないと見ることはできません。それが、
さいたま芸術劇場小ホールという恵まれた場所で拝見できます。鑑賞料金も1000円とリーズナブルで
す。

ぜひ、応援してあげよう。県内に伝わる里神楽も見られるのだから～と、お考えくださるよう、お願いい
たします。

◎公演について

夕方公演は9月26日(金)、午後16時30分～19時。場所は埼京線与野本町駅下車7分のさいたま
芸術劇場小ホール。演目は「国譲り・猿田彦四方剣拜」丁寧な解説つきですので、ご安心です。
出演は坂戸市の大宮里神楽保存会とゲストの梅鉢会さん。

◎チケットの入手について

○インターネットでの申込み yfe78576@nifty.com へ。席数、チケット送付先、(住所・氏名・電話
番号)を連絡のこと。料金は当日、受付にて支払い

○電話での申込み 090-9953-0299 齊藤さんへ。住所・氏名・電話番号を連絡のこと。料金は
当日、受付にて支払い

◎その他

○どうしても、昼公演(午後13時30分～16時)の方が都合がよい方は、その旨、お話しください。

○解説プログラムは1部1000円にて会場で発売。

うっし

江戸の「写」文化

＝模写・模倣から植物図譜、洋風画まで＝

江戸時代、「写す」ことは「倣う」ことにより「学ぶ」という意味合いが強く、絵画、工芸を含めた江戸文化の根底に流れる傾向でもありました。

現代の著作権や工業所有権の保護の考え方、独創性を重視する創作態度とは異なる間口の広い価値観があり、そこから多様な作品が生み出されたことが確認できます。

江戸文化の一端に触れる「トキ」を共に楽しみましょう。

講師の浦木賢治さんは、日本美術史を専攻され、近世絵画がメインテーマ。

去年は、このプレミアム講座で、特別展「狩野派と橋本雅邦」についてのお話をいただいています。現在は「埼玉と徳川家康」の関係について、研究中とのことです。

講師 浦木賢治氏

当館企画担当学芸員

とき 平成26年9月2日(火)

午後1時半～3時

ところ 当館講堂

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキにイベ

ント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記、8月26日(火)必着で、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族・お友達をお誘いください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

江戸時代の村と百姓の実像

悪代官にいじめられる。地主にもいじめられる。

どれだけ豊作でも、米など食べられない。

文句をいえば、切捨てご免。ああ、こんな暮らしはいやだ。

ホントは、どうだったの？ ホントのお話をきいてみたい。

講師 渡辺尚志先生

一橋大学大学院教授

とき 平成26年9月23日(祝)

午後1時半～3時

ところ 当館講堂

東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅5分

ご参加無料

☆ご参加お申込みは、往復ハガキにお名前・ご住所・お電話番号・会員の方は会員番号・イベント名を明記、返信面にお名前、ご住所をご記入のうえ、9月18日(金)必着、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員150名オーバーの場合は、その時点で締め切らせていただきます。

☆ハガキが消費税値上げのため、往信・返信各52円となっていますので、ご注意ください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

平成26年9月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行 ☆330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219

仏教美術から受けたカルチャーショックが・・・

理事 手塚 充 (大宮区)

仏教美術といっても、範囲が広いことばですが、私が、高校時代に魅せられたのは、特に仏像の美しさでした。

キッカケは、半世紀以上前の高校の修学旅行で出会った仏像群、なかでも京都・太秦・広隆寺の弥勒菩薩半跏像（宝冠弥勒）に出会ったことでした。それまで、歴史には全く興味を持たず、高校生活の3年間、顕微鏡を通してミクロの世界ばかり覗いて過ごしてきた私を、180度変えてしまう出来事でした。

弥勒菩薩の、神秘的な微笑を浮かべ、指をそっと頬に当てながら、思索にふけるおだやかな表情に釘付けになり、そばを離れたくない気持ちでいっぱいでしたが、現在の修学旅行のようにグループ単位で好きなところを見学する時代ではありませんでしたので、先を急かせる先生の声に恨めしく思ったことが、今でも思い出されます。

もう一つ、魅せられた仏像は、奈良・興福寺八部衆立像の中の阿修羅像でした。修学旅行の定番、猿沢の池と五重塔をバックに記念写真を撮り、堂内に入りました。薄暗い室内には、今まで出会った仏像と違い、何か人間くさい八部衆立像の一群があり、中でも阿修羅像の切ないまなざしに引き付けられました。涙を溜めているかのような下まぶたのふくらみ、ほのかな柔らかさを感じさせる頬や口もと、ツンととがった鼻先など、スリムな長身と共に、目に焼きつき、今まで知らなかった世界にカルチャーショックを受けました。

結局、修学旅行のお小遣いのほとんどを、仏像の写真を買って集めて帰りました。

そんな経験がベースにあって、子育てから開放されたとき、仏像拝観の旅、歴史講座、講演会、史跡めぐりの旅などへ出かけるようになり、何度かの岩槻・慈恩寺参りのあと、玄奘三蔵の足跡を辿りたくなって、中国まで足を伸ばしたこともありました。

中国西域を、西安から新疆ウイグル自治区まで歩き、遺跡高昌故城では、玄奘三蔵が歩いたであろう、泥塊と化した建物のなかを歩き、敦煌“莫高窟”の壁画に、見覚えのある法隆寺壁画を感じ、日本の仏教美術の源流に触れたような感動を憶えました。

いきがい大学に入学して“ふるさと伝承科”を選び、史跡めぐり等の旅に出る機会が多くなり、ますます、歴史への関心も高まり、“歴女”への拍車がかかりました。

いきがい大学伊奈学園卒業前の課題学習のテーマに「中山道」を選び、1年間かけて、グループ学習をすることになり、その指導をしてくださった先生が、この博物館の現副館長の杉山正司先生でした。そんなご縁で、博物館へ出入りする機会が多くなり、友の会の存在を知り、お仲間入りさせていただきました。

友の会に入会し、沢山の講演会、見学会に参加させていただき、今までの細切れな知識の点と点が少しずつ繋がり、線になり、面になってくるのを楽しんでいます。あのときの、未知の世界との遭遇というカルチャーショックが背景にあるように思えるのです。

友の会ピックアップ

◎これからのイベントなど <博物館主催のイベントについては、同封の博物館のチラシをご覧ください>

○9月23日(祝) 講演会「江戸時代の村と百姓の実像」 講師：渡辺尚志氏(一橋大・大学院教授)
ニュース前号・本号参照

○9月26日(金) 江戸里神楽公演

○10月4日(土)～5日(日) 見学会「秋の東北/多賀城への旅」 ニュース本号参照

○10月4日(土) 友の会・古道探索倶楽部「鎌倉街道を訪ねて」第7回 ニュース前号参照
集合：東武伊勢崎線・和戸駅 10時 和戸駅～幸手駅まで約9kmを歩く 参加費：資料代等300円
少雨決行 問い合わせ先 048-756-5634 犬走(いぬばしり) 9月19日までにハガキに住
所・氏名・電話番号(自宅・携帯とも)を明記し、〒339-0058 さいたま市岩槻区本丸3-8-17
犬走東道へ。昼食はご用意ください。

○10月18日(土) 友の会・日本の祭り研究クラブ「川越まつり」 ニュース前号・本号参照

○10月23日(木) プレミアム講座「古墳時代の武器・武具」 ニュース本号参照

○10月24日(金) 友の会・浮世絵同好会「大江戸名所百景を歩く」 ニュース本号参照

◎来年3月までの新入会員・年会費、1000円です。お友達にご入会をおすすめください。

■「浮世絵同好会」が発足しました。参加をお待ちしております。

これまで映像・写真クラブの活動として行ってきた『大江戸名所百景を歩く』ですが、今後は「浮世絵同好会」という新しいクラブ名で活動することになりました。当面は2か月に1度くらいの見学会(名所・美術館など)や懇親会を行います。広い意味で浮世絵や美術鑑賞・名所歩きに関心のある方の参加をお待ちしています。連絡は筑井(090-1990-4807 Eメール：pu8n-tki@asahi-net.or.jp)まで、

『大江戸名所百景を歩く』(第3回 虎の門・芝方面)

埼玉県立歴史と民族の博物館友の会 浮世絵同好会

『大江戸名所百景を歩く』第3回を「友の会浮世絵同好会」の主催で開催します。今回は再開発で大きく変わった新橋から芝・増上寺を経て大門まで、以下の浮世絵の題材地を探しながら歩きます。長時間の行進はしない予定。昼食は最先端の高層ビル・虎の門ヒルズか伝統の江戸蕎麦か? どなたでも参加いただけます。

- ・第113景 虎の門外あふひ坂
- ・第112景 愛宕下藪小路
- ・第21景 芝愛宕山
- ・第53景 増上寺塔赤羽根
- ・第79景 芝神明増上寺

記

日時：2014(平成26)年10月24日(金) 小雨なら決行

集合：JR新橋駅 烏森口改札出口 午前10時

(改札を出たところの「友の会の旗」が目印です)

主催：埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 浮世絵同好会

内容：以下のコースを順番に散策(15時解散予定。途中暫時休憩)

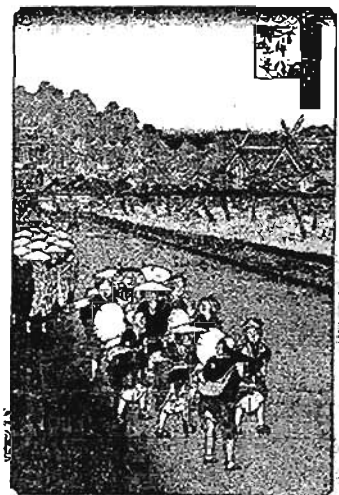
JR新橋駅～虎の門(ヒルズ)～愛宕神社～芝公園～増上寺～大門～JR浜松町駅

申込：(以下のいずれかで事前申込をお願いします)

①FAX：048-470-2758 ②Eメール：pu8n-tki@asahi-net.or.jp

③「友の会ホームページ」の「申込フォーム」より送信

氏名・会員番号・連絡先電話などを明記 問合せ：090-1990-4807(つくい) (資料代：100円程度)



昔も今も名所見物の一行は楽しそうです 『第七十九景 芝神明増上寺』

2014年	埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 「日本の祭り研究クラブ」
第9回 お祭り見学会のお知らせ(参加自由)	
《名称》	国指定重要無形民俗文化財(平成17年) 『川越まつり』(川越市)
《期日》	10月18日(土) 雨天決行
《集合》	東武東上線「川越駅」改札出口 午後15時00分 (JR川越線利用者も上記場所)
《費用》	★交通費・夕食代・保険代(50円)等
《持物等》	★歩き易い靴及び服装・帽子・飲物・カメラ等
《申込み》	★下記の連絡先までお願い致します。
<p>★川越まつりの概略(10月18日～19日の2日間)</p> <p>● 最大の特徴は、江戸「天下祭」を今に再現した山車行事。(360年間継続)</p> <p>(1)川越氷川祭の山車行事は、10月14日に氷川神社が執行する「例大祭」を根源として、直後に行われる「神幸祭」や「山車行事(祭礼)」から成り立っている。</p> <p>(2)「神幸祭」は、慶安元年(1648)に、当時の川越藩主、松平伊豆守信綱が氷川神社に新興・獅子頭・太鼓等を寄進し、祭礼を奨励したことが始まりである。慶安4年(1651)から華麗な行列が氏子城の町々を巡行し、町衆も随行するようになる。この祭祀、祭礼が「川越まつり」の起源である。</p> <p>(3)精巧な人形を乗せた絢爛豪華な山車が、小江戸川越を象徴である蔵造りの町並みを中心に、町中を曳行される。そのスケールの大きさが、見物客を圧倒する。</p> <p>(4)祭りの楽しみ方：昼は、人形や彫刻、幕の刺繍など、それぞれの違う個性をもった山車を比べながら見て回る。 ：夜は、提灯明かりがともし、幻想的な姿となった山車の様子と、囃子が入り乱れ、曳き方衆の提灯が乱舞する曳っかわせが、最大のみどころ。</p> <p>●川越まつり 10月18日 スケジュール</p> <p>13:00～「神幸祭」氷川神社を出御～一番街～14時頃市役所前～氷川神社 14:30～市役所前に山車が集合 18:00～宵山 21:00 曳っかわせ終了</p>	
連絡先：元木孝 TEL：0493-54-0401 (携帯090-2259-1673)	
★次回予定12月8日(月) 中山神社鎮火祭：(さいたま市見沼区)	

江戸時代の村と百姓の実像

悪代官にいじめられる。地主にもいじめられる。

どれだけ豊作でも、米など食べられない。

文句をいえば、切捨てご免。ああ、こんな暮らしはいやだ。

ホントは、どうだったの？ ホントのお話をきいてみたい。

講師 渡辺尚志先生

一橋大学大学院教授

とき 平成26年9月23日(祝)

午後1時半～3時

ところ 当館講堂

東武アーバンパークライン(野田線)大宮公園駅5分

ご参加無料

☆ご参加お申込みは、往復ハガキにお名前・ご住所・お電話番号・会員の方は会員番号・イベント名を明記、返信面にお名前、ご住所をご記入のうえ、9月18日(金)必着、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員150名オーバーの場合は、その時点で締め切らせていただきます。

☆ハガキが消費税値上げのため、往信・返信各52円となっていますので、ご注意ください。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

古墳時代の武器・武具

＝ 特別展「甦る鉄剣」を通して ＝

10月11日から始まる特別展「甦^{よみがえ}る鉄剣」では、「目玉品」の鉄剣以外の^{ゆが}甲・^{かぶと}冑などの重要文化財の品の展示にも見どころがあります。また、武人埴輪や盾・^{たち}大刀等の器材埴輪にも注目です！

本講座では、特に、古墳時代の武器・武具の中での一級品に注目して、紹介していただきます。講堂での説明後には、展示室に移動し、現物を直接確認していただけます。(会員証を忘れずに持参してください)

講師の中山浩彦さんは、日本考古学を専攻され、特に弥生から古墳時代の外来系土器に関心大とのこと。展示解説ボランティアの担当もされています。

講師 中山浩彦氏 当館展示担当主任学芸員

とき 平成26年10月23日(木)午後 1 時半～3時

ところ 当館講堂

ご参加無料 ご参加のお申込みは、通常ハガキに、イベント名・住所・氏名・電話番号・会員番号を明記し、10月16日(木)までに必着で、〒330-0803さいたま市大宮区高鼻町4-219埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。返信はいたしません。お申込みいただければ、ご参加いただけます。会員限定ですが、ご家族、お友達はご参加いただけます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会

遥かなる多賀城。

北をにらむ、古代の最前線。

そこに、あなたは何を見るでしょうか？

当時の「大辺境」に、最前線として造られた多賀城跡を中心に、多賀城廃寺、陸奥国分寺・尼寺、
仙台市立博物館、東北歴史博物館、遠見塚古墳、塩釜神社などを、現地専門家のご案内で～

秋 の 東 北 ! 多 賀 城 へ の 旅

ご案内＝佐々木和博先生(宮城教育大、東北学院大・非常勤講師)

実施日＝平成26年10月4日(土)～5日(日)

コース＝**4日** 8時15分・大宮駅集合―8時34分・やまびこ127号乗車
―10時11分・仙台駅着＝仙台市立博物館(見学・昼食)＝瑞鳳殿＝陸奥
分寺・尼寺＝遠見塚古墳＝ホテル(シングル)＜＝印 仙台駅着後の見学はバスを利用＞

5日 8時30分・ホテル発＝多賀城埋文センター＝多賀城廃寺＝東北歴史
博物館＝多賀城跡＝塩釜神社＝仙台東照宮＝17時・仙台駅着―18時08分・
やまびこ218号乗車＝20時18分・大宮駅着 解散

参加費＝39,800円(新幹線・宿泊・バス・入館料ほか一切)

ホテルが2軒に分かれるため、900円をお戻しする場合があります。割り振りは、当方にお任せください。スケジュールは変更することがあります。

お申込みは通常ハガキに、ご住所・お名前・お電話番号・会員番号・イベント名を(バス隣席ご希望の場合は同じハガキで)明記し、〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。締切＝9月19日(金)。定員27名(最小催行22名)。お申込み多数の場合は先着順。お申込み資格は会員・ご家族・ご友人。ご参加の可否は締切後、ご連絡します。参加費は、連絡後、9月20日(土)・21日(日)の10時～4時に博物館友の会受付にご持参、または振替貯金で。お問い合わせ 090-4139-2740 宮川
キャンセルにはJRの規定によるキャンセル料が必要な場合があります。

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会